

平成28年8月7日  
今週のベストショット



青松園A 奈多サンデーズ 対 レッドサンデーズ戦  
2-5のビハインドから逆転の満塁HRを放つレッドサンデーズ川原陸選手

写真：ブルーマリーナズ 井手翔一郎

青松園B 奈多クラブ今林瑠生投手が七回完封12奪三振！

三苦フレンズ（0勝7敗）0000000 0 山口（和）●-一生野（拓）

奈多クラブ（6勝1分）100100X 2 今林（瑠）○-安河内

HR：今林（瑠）（奈多ク）3BH：吉村（雄）、山口（和）（三苦フ）2BH：安河内（奈多ク）

両チーム、共にリーグを代表するピッチャー奈多クラブ今林瑠生投手、三苦フレンズ山口和也投手の先発で始まった。一回裏奈多クラブの攻撃、三番今林瑠生選手のレフトオーバーのソロHRで先制する。反撃したいフレンズは三回表、一番吉村雄成選手がレフトオーバーの三塁打で出塁し、二連続四球で満塁の絶好の場面で四番の山口（和）選手に回わる。だが今林（瑠）投手の前に三振に倒れる。続く五番太田選手も三振に倒れチャンス逃すと、その裏奈多クラブの今林（瑠）選手がサードのエラーで出塁すると、五番のキャッチャー安河内選手がレフトへ二塁打を放ち貴重な追加点を入れる。2点差を追うフレンズは六回表先頭の山口（和）投手が自ら右中間へ三塁打を打ちチャンスを作るが、このピンチを今林（瑠）投手が圧巻の三連続奪三振。その後も両投手の投げ合いでゲームセット。予想通りの投手戦となったが少ないチャンスをものにした奈多クラブ、二度の大チャンスに点を繋げられなかったフレンズ。明暗のはっきりした試合でしたが、両チームとも気合いの入ったいい試合でした。（記事・写真：三苦ホーネッツ 隈崎雄裕）



完封勝ちを収めた奈多クラブ今林瑠生投手。



力投実らずフレンズ山口投手。



一回裏、先制のソロHRを放った奈多クラブ今林瑠生投手。



三回表、反撃の三塁打を放つも釘付けの吉村（雄）選手。



四回裏、追加点の二塁打を放つ奈多クラブ五番安河内捕手。



六回表、負けじと三塁打を放つ山口投手だが、またもや釘づけ。



ファールフライに果敢に飛びつく奈多クラブ馬場口三塁手。



貴重な打点を挙げ、完封勝利の奈多クラブバッテリー。

## 奈多グラウンド 三友クラブ継投で逃げ切り

三友クラブ (4勝2敗) 1 2 0 1 0 4 足達○、久岡一柿崎  
奈多フェニックス (5勝1敗1分) 0 0 2 0 0 2 松本●—実延 (新)

3BH: 能丸(三友ク) 2BH: 中内(三友ク)

一回表三友クラブは、柿崎選手をランナーに置き三番中谷選手の適時打で1点を先制し、二回にも尾沢選手、中内選手の適時打で2点を追加して、3点リード。対する奈多フェニックスは、初めて三友クラブ打線が無失点で抑えた三回裏、今林(英)、高原選手の連続四球と能丸選手の適時三塁打で2点を返す。流れを与えたくない三友クラブは四回表、中内選手の今日3安打目の二塁打で更に1点を追加し再びフェニックスとのリードを広げた。四回裏からは先発の足達投手に代わって久岡投手がマウンドに上がると、フェニックス打線を四、五回無失点に抑え、足達、久岡投手の継投でこのゲームを逃げ切った。対するフェニックスの松本投手は4失点ながら三友クラブのバットをへし折るなど気迫溢れるピッチングを魅せた。(記事・写真: 三苦三球会 船橋史)



2失点で試合を作った三友クラブ先発の足達投手。



初回内野安打を放った三友のリードオフマン柿崎選手。



フェニックス先発の松本投手。



三回裏、適時三塁打を放ったフェニックス能丸選手。



内野安打を足で勝ち取るフェニックス福島選手。



今日3安打の大活躍! 三友クラブ中内選手。



ファーストへの内野安打を放ったフェニックス大田選手。



2イニングを無失点に抑えた三友クラブ久岡投手。

### 青松園A サンデーズ同士の対戦、激闘の末決着つかず

奈多サンデーズ (5勝1敗1分) 3 0 1 1 1 6 砂場△ー長浜

レッドサンデーズ (1勝5敗1分) 0 0 1 5 0 6 塚本△ー荒口

HR: 土田 (奈多サ)、川原 (陸) (レッド) 2 BH: 川上、宮口 (奈多サ) 盗塁: 川上、長浜 (奈多サ) 2

サンデーズ同士の対決となったこの試合は激闘の結果引き分けとなった。奈多サンデーズ (以下サンデーズ) は初回、レッドサンデーズ (以下レッド) 塚本投手の立ち上がりを捉え五番宮口選手の犠牲フライと六番野田選手のタイムリーで3点を先制する。追いつきたいレッドはサンデーズ先発、砂場投手の前に三者凡退を喫する。二回は両チーム0点で終了する。その後、サンデーズが野田選手のスクイズ、土田選手のソロHRなどで5-1と4点リードした四回裏、レッドは四死球と安打で無死満塁のチャンスを作ると、八番吉岐選手の適時打で1点、続く満塁のチャンスで一番川原 (陸) 選手に満塁HRが飛び出し一気に逆転に成功する。ここで試合が決まったかと思われたが五回表、サンデーズは五番宮口選手の二塁打でチャンスを作ると代打で登場した田中選手に中前適時打が飛び出し同点に追いついた。この試合では豪快なホームランだけでなくサンデーズ宮口選手がチャンスできっちり犠牲フライを打つ姿勢やレッドのしっかりボールを見極め、チャンスを作ったところなど両チームから勝利に対して意識の高さとレベルの高さを感じた。しかし両チームミスからランナーを進めてしまうなど失点に絡む場面が少し見られた。修正し次の試合に臨めばさらに強いチームになると感じた。

(記事・写真: ブルーマリーズ 井手翔一郎)



奈多サンデーズ先発の砂場投手。



レッドサンデーズ先発の塚本投手。



二度グラブからボールがこぼれたレッド八島選手。



四回表、ソロHRを放ったサンデーズ土田選手。



五回裏、起死回生の満塁HRを放つレッド川原陸選手。

#### 雁レク4 ライナーズ驚異の1イニング5HR!

雁ノ巣ライナーズ (4勝2敗1分) 10500113 20 有馬○、今林ー山崎

ソルトベイスターズ (0勝7敗) 0010020 3 中村(耕) ●ー酒井

HR: 久保田、明瀬(航)、宇野2、山崎(雁ノ巣) 2BH: 中村(耕) (ソルト)

前日の大雨から一転、見事に快晴となった雁レクは、雁ノ巣ライナーズの先攻で試合が開始された。一回表、ライナーズは二番国崎選手の四球を足掛かりに四番宇野選手のライト前安打と相手の失策を絡めて1点を先制する。しかしソルトベイスターズ先発の中村耕投手は後続を抑え、最小失点で立ち上がりを切り抜ける。ライナーズ先発の有馬投手も抜群の制球力でソルトベイスターズ打線を抑え、序盤は静かな展開となった。試合の様相が一変したのは三回表。四球、内野安打で出塁した走者を下位打線が返す効率の良い攻めで、ライナーズは5点の挙げて一気に試合のペースを握った。ソルトベイスターズも真弓選手、石井選手のベテラン勢の活躍と、四番中村選手の二塁打などで3点を返したが、気温の上昇と共に体力も奪われていき、両チーム消耗戦の様相を呈していく。しかし最終七回、再びライナーズ打線が爆発する。先頭の八番山崎選手が左中間本塁打で口火を切ると、安打を挟み一番久保田選手も本塁打。更に内野安打を挟んで三番明瀬(航)選手、四番宇野選手が連続本塁打放つ。この後二死を取られるものの、四球と内野安打で塁を埋め、四番宇野選手がこの回二本目となる驚異の満塁弾で試合は決した。ソルトベイスターズも懸命に反撃したが、二度のビッグイニングを作ったライナーズの圧勝となった。(記事・写真: 塩浜ジャガーズ 高嶺信彦)



自身の打球が直撃！ソルト中村（耕）選手。



ソルト石井選手「痛い！」



暑い中力投のソルト先発中村（耕）投手



本塁打No. 1、山崎選手。



本塁打No. 2 久保田選手。



本塁打No. 3 明瀬（航）選手



グランドスラム！宇野選手。



1本だけ3キロのバットが隠れています。



ライナーズの本塁打4選手+岩崎監督

## 第13週編集後記

WSLの皆さん、コンニチハ！

第13週、8月7日は4試合が行われました。

青松園Bの三苦フレンズ対奈多クラブ戦は、奈多クラブのバッテリーが試合を決めた。今林瑠生投手が投げては完封、打っては先制HR。安河内捕手が貴重な2点目のタイムリーを放つ。フレンズの山口投手は自身で三塁打を放ち、投げては2安打に抑えたが0-2で奈多クラブの勝利。フレンズは二度のランナー三塁（無死と一死）を得たがどちらもチャンスを活かせなかった。春の藤本杯では指揮官がバントなど機動力を多用して優勝したのだから、その戦術にならって残りを戦ってもいいのでは？

奈多グラウンドの三友クラブ対奈多フェニックス戦は序盤に先制、追加点を効率的にあげた三友クラブが1点差に追い上げられた四回表に、この日3打数3安打3打点の三友クラブ三番中内選手が貴重な追加点を挙げ、四回裏からは8安打打たれるも2失点に抑えた足達投手からマウンドを譲り受けた久岡投手が被安打0の見事な継投を見せ、4-2で三友クラブが逃げ切った。

青松園Aの奈多サンデーズ対レッドサンデーズ戦は、幸先よく3点をリードし、先発砂場投手が二回までパーフェクトのサンデーズは4点リードで迎えた四回裏、レッドに下位打線で1点を返され、満塁のピンチに一番川原兄弟の弟・陸選手から逆転満塁HRを打たれる。最終回サンデーズ田中監督のタイムリーで何とか同点に追いつく。その裏レッドは無死からサヨナラのランナーを四球で出すも無策の一塁釘付けで6-6の引き分け。勿体無い勝利を逃した。

雁レク4の雁ノ巣ライナーズ対ソルトベイスターズ戦は、ライナーズが1点先制、5点中押し、14点ダメ押

しの20得点。最終七回表の山崎、久保田、明瀬（航）、宇野（2）選手の計5HRは見事。ソルトも10安打を放ったが、如何せん点を取られ過ぎた。

リオデジャネイロオリンピックも半分が終わり、日本勢のメダルラッシュが続いています。

勝利を得るには、相手に対して桁違いの実力を持っているか、運を味方につけ冷静に試合を運ぶ心の強さが必要です。

そして、勝つための作戦を練っておくのも大事ですね。